



Title	地表揺起しとブナの更新について
Author(s)	田中, 勇
Citation	北海道大学演習林試験年報, 1, 26-27
Issue Date	1984-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/72620
Type	bulletin (article)
File Information	1982_1-12.pdf



[Instructions for use](#)

I-12 地表搔起しとブナの更新について

田 中 勇

目 的

チシマザサ（以下ササ）の地表処理の違いが、その後のササの生長とブナの更新にどのような影響を与えるかを調査した。

試験地の設定

北海道有林松前経営区173林班（上ノ国町字宮越）のブナ天然林択伐跡地で、新設された林道わきの盛土地にプロット I（1×1 m以下同）、ササ刈払い地にプロット II を、47年10月に設定した。この近くで48年10月ブルトーザによる地表搔起しがおこなわれたので、弱度に地剝されたところに50年10月プロット III、中度に地剝されたところに54年10月プロット IV、V を設定し、以後毎年10月にササの本数、稈長、ブナの本数、樹高を調査した。プロット II の刈払区は47～51年毎年夏に1回、地上25cmの高さでササの刈払をしたが、ブナが25cmを越えた52年以降刈払いを中止した。

結果と考察

調査結果は図1-4に示す。ササの稈長、ブナの樹高はプロットの中で一番高いものを示した。58年10月の調査で、ササの本数はプロット II が80本で一番多く、稈長も1.8mと最も大きかった。ブナの本数はプロット V が38本で一番多く、樹高はプロット I の1.45mが最も大きかった。

49年、53年、56年はブナの豊作年であったが、各プロットの本数にはその影響は認められない。また、ササの本数の多いプロットはブナの更新本数が少ない傾向がみられる。

現在までみて、ブナの発芽時には植生がなく、その後はブナの生長を阻害しない程度に、若干の草本が生えたプロット I が、発芽後10年で1㎡当り約15本、樹高150cmと比較的良好な成績を示している。

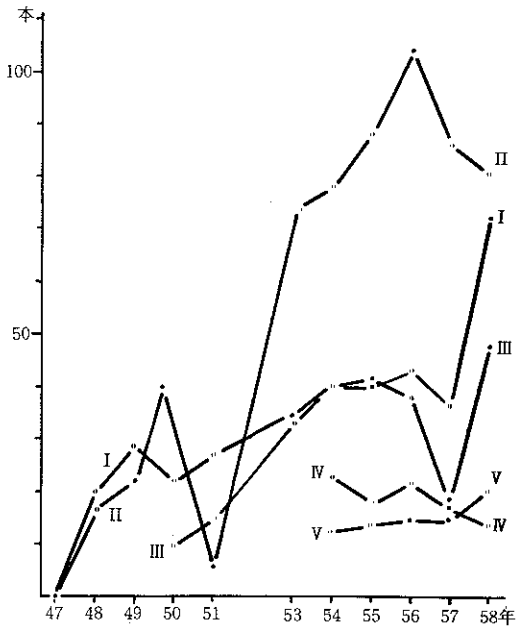


図-1 各プロットにおけるチシマザサの本数

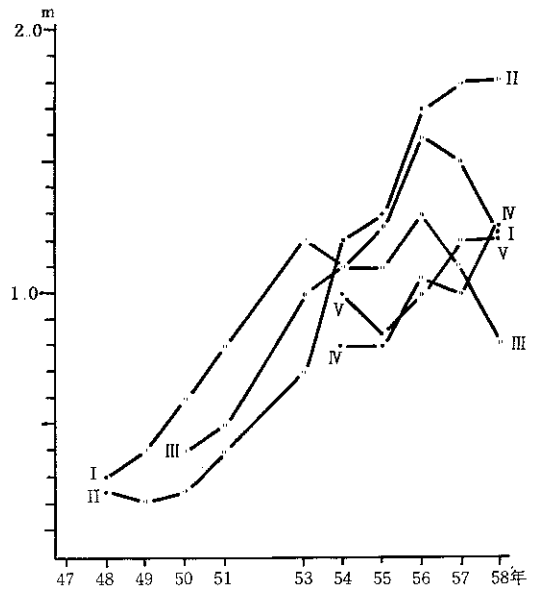


図-2 各プロットにおけるチシマザサの樹高

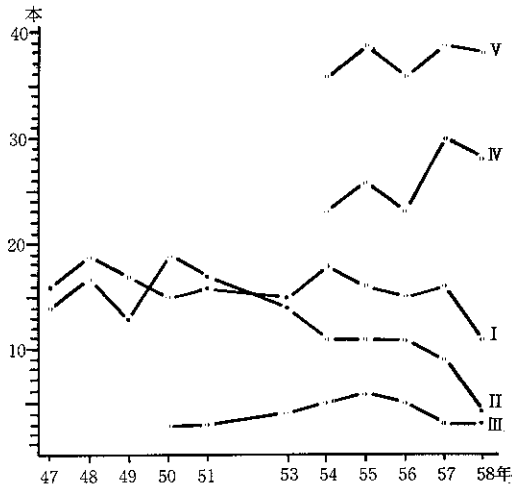


図-3 各プロットにおけるブナの本数

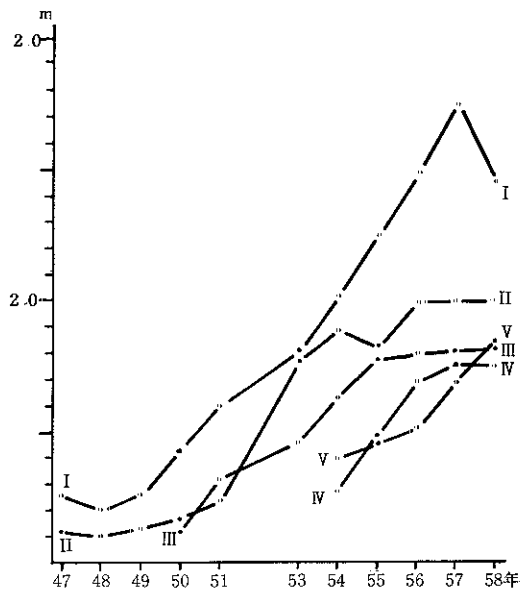


図-4 各プロットにおけるブナの樹高